

長い間お世話になりました
事務局を退任された
清水静さん・入谷昭宏さん・小澤広子さん
ありがとうございました！

長い間事務局で患者会活動を支えていただいた、清水静さん・入谷昭宏さん・小澤広子さんが事務局の任務を退任されました。

7月1日の幹事会の後、ささやかな送別会を催しました。二〇〇七年に解決した、東京大気汚染公害裁判中は、それまで積み上げてきた

経験を活かし、患者会のために奮闘してくださいました。裁判解決後は勝ち取った医療費助成の周知・公害対策のために地域活動・新たな救済を求める署名の集約・財政の管理等々、お世話になりました。

いつも患者会事務所にあった三人の笑顔を見られないのは残念ですが、ライフ

ワークである環境問題への取り組みは続けられるので、患者会活動の中でお会いできます。

現在専従の事務局6人でこれからはガンバリますが、新しく入会された会員のみなさんの中から幹事さんを引き受けてくださる方も増えて、患者会も少しずつ変わっていくのですね。



清水静さん



入谷昭宏さん



小澤広子さん



アンケート結果について
患者会・東京保険医協会と合同記者会見！

西村弁護士 東京保険医協会副会長 赤羽根蔵 医師 中央 東京保険医協会 会長 拝殿清名 医師 左

果を、東京都庁内の記者クラブで報告しました。

患者会からは会長代行秋元正雄・事務局長増田重美・副会長石川牧子が出席しました。

約二千名の回答から、九割の患者が五年後（平二五年八月）の見直しについて知らなかった・制度を継続してほしいと回答していること、お金の心配がなく治療に専念八割・症状が改善五割以上と、制度効果の高さを西村弁護士から報告しました。赤羽根先生からは、制度が開始さ

昨年からの東京市民連・東京保険医協会の協力を得て、患者会に届けられた、ぜん息医療費助成制度認定者のアンケート結果の回答を集計した結果、約二千名の回答から、九割の患者が五年後（平二五年八月）の見直しについて知らなかった・制度を継続してほしいと回答していること、お金の心配がなく治療に専念八割・症状が改善五割以上と、制度効果の高さを西村弁護士から報告しました。赤羽根先生からは、制度が開始さ

7/20の座り込みについて増田事務局長から



れてからは酷い発作になってから初めて受診するという患者が減り、早期治療と予防の実現ができたことは、医師の立場からも大変評価したいとの発言でした。

会見後から新聞各社から取材の申込みがあり、七月二十日の座り込みには記者が大勢取材にきました。

患者会の支部活動報告

大田支部学習会

六月二十九日（金）大森ラズ（地域会館）にてはぜん息医療費助成制度五年後（二〇一三年）見直しについての説明会を行いました。

会場には、アンケートのご協力をいただいた方のうちから、山田さん・内田さんが参加。会員から十名、堀弁護士・西村弁護士、事務局から石川さんと十五名の参加でした。

丸茂さんの司会で、西村弁護士より制度の見直しについて、国に求める新たな救済制度について、お話をしていただきました。

石川さんより、薬の使い方の話しの中、薬によってぜん息が和らいだ、あるいは副作用で声がかすめる・喉がつかえる等々、通院ではなかなかわからなかつた点など話されま

今は無料なので助かっているかという報告もありました。様々な点で、学習会に参加して良かったという意見がありました。

大変暑い中ご参加くださいましたお二人（山田さん・内田さん）にも感謝いたすと共に、この制度を継続してもらえよう一緒に活動にご協力してもらえたら嬉しいです。との支部長の挨拶で学習会を終えました。

ご参加くださったみなさま、ありがとうございました。

大田支部長 和田栄子

また、いかに薬代が高価で、

共感

ミナマタ病特措法締め切り反対の座り込みに参加して

七月三日、十九日まで週三日を三週間にわたり続けられた、ミナマタ病患者による座り込み行動の応援をしました。

「水俣病特措法」とは、ミナマタ病患者を救済するために平二二年五月開始され、二十四年の七月末で国が締め切るとしている特別措置法です。まだまだ知らない患者や手を挙げられない患者のために期限延長を求めの座り込みです。

ミナマタ病が公式確認されてから五十六年が経ちます。たった二年間救済の門を開き、あとは打ち切る・つてなんだか今、私たち東京公害患者会が東京都に継続を求めていることと重なりま

判に訴えた四日市公害裁判解決四十周年でもありません。チツソが垂れ流したメチル水銀によって、半世紀たつても患者が発病し続けているミナマタ病と、四日市公害当時のコンピナートなどの固定発生源から、自動車排ガスという移動発生源に変わつても大気汚染に苦しみ続ける、大気汚染公害患者は共感できます。

東京大気汚染公害裁判中はノーモアミナマタ原告団と励まし合つて裁判を闘いました。空も海も私たちが生きるためにある。汚しただけで被害を受けた患者だけが一生背負つていくにはあまりに重く辛い代償です。

公害は汚染者負担で被害の救済をすることと信じています。



日本の四大公害といえ、水俣病・新潟水俣病・イタイイタイ病に四日市公害です。今年は大気汚染公害で初めて裁



怒りのシュプレヒコール



座り込む患者、右半分は東京患者会